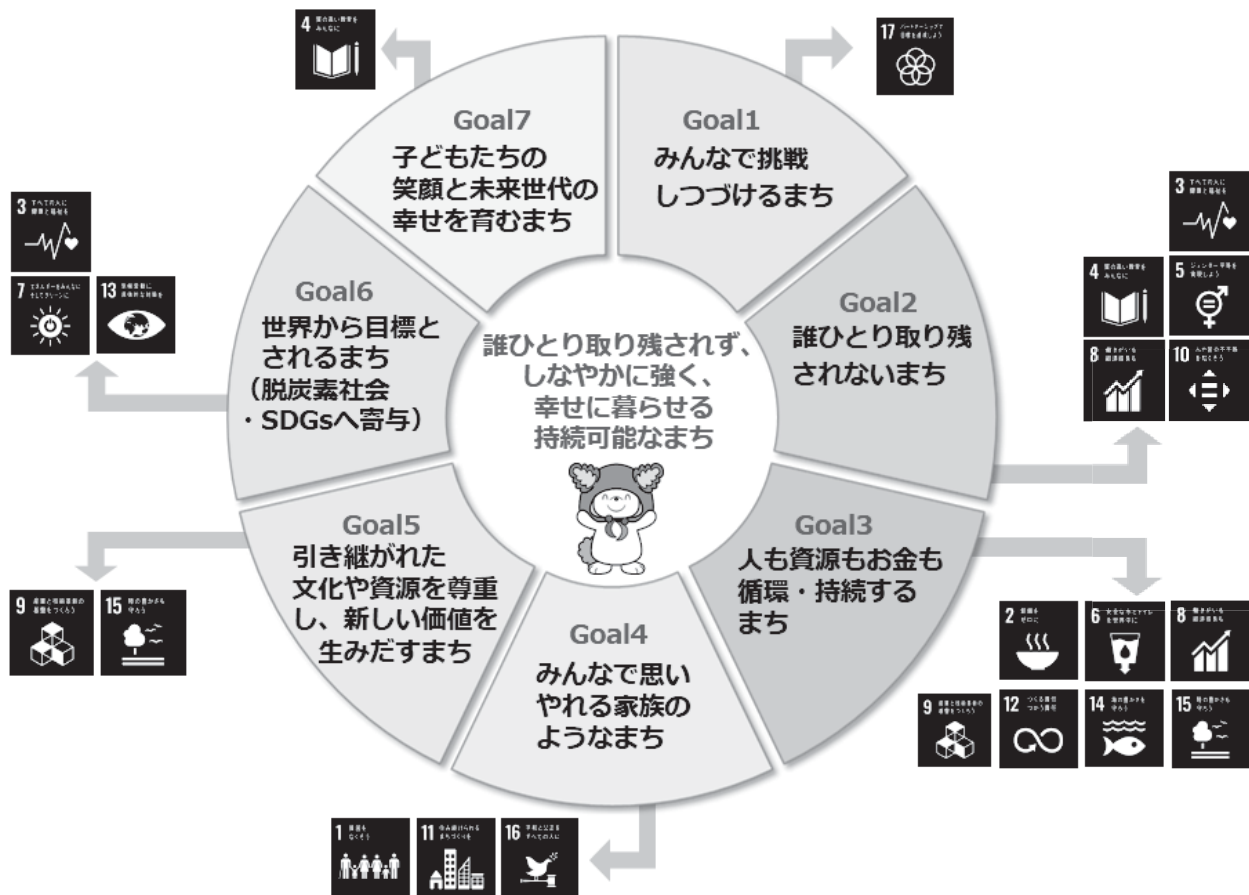


2030年における下川町のありたい姿



しもかわの「ここ」がすごい!

国連主催のSDGsフォーラムにて

年に一回、全世界でSDGsの進捗報告をする国連主催の「ハイレベル政治フォーラム」があり、国、自治体のイベント「VNRLAB2021」に日本、スウェーデン、アルゼンチンの政府と自治体が登壇しました。各国から100名以上が参加し、今後の可能性を探りました。下川町は町規模でSDGsに取り組む、小規模自治体の希望としてとても注目されました。



「ありたい姿」掲示板

町民の皆さんのSDGsにつながる活動やまちづくりの関心事にお答えするコーナーです。“町内の面白い活動は？”“こんなことがしたい、知りたい”“私が気軽にできる取組はこれだ！”などなど、皆さんの声を『知恵の環』にお寄せください。



第3弾

ありたい姿 探検記



前回のおさらい

なぜ下川はSDGsを取り入れるのか？

元々SDGs達成に貢献する活動を日々当たり前のように行ってきた
町民中心にしたまちづくりの「共通言語」、「ツール」として捉えていた
町民が下川、地球での生活が持続するために自身で考え、行動することを支援する役割

今回は、下川町のSDGs取組の方針に焦点をあてます。

SDGsの落とし穴

まず、背景のSDGsに取り組みにあたっての危ない落とし穴を紹介いたします。



国連NY本部の安全保障理事室

「SDGsは世界中で採択された、誰にでも当てはまる目標です。規模、状況の異なる先進国、発展途上国、自治体。課題はそれぞれあるにも関わらずSDGsに取り組めるのは、それだけSDGsがふわっとしている目標だからなのです。そのため、「SDGsは世界目標であり、自分には関係ない。」という印象になつてしまっています。

SDGsは世界中で採択された、誰にでも当てはまる目標です。規模、状況の異なる先進国、発展途上国、自治体。課題はそれぞれあるにも関わらずSDGsに取り組めるのは、それだけSDGsがふわっとしている目標だからなのです。そのため、「SDGsは世界目標であり、自分には関係ない。」という印象になつてしまっています。

SDGs紐つけの魔法

また、SDGsは社会貢献しているアピールとして使われがちです。しかし、今までの取組にSDGsのゴールを紐づけるだけではSDGsにはなりません。紐づけた先にはなりません。紐づき強みや課題を踏まえて、よりよい社会をつくるために活動することがSDGsに取り組むということ

世界初！お手製のSDGs

落とし穴に落ちないため、例えばラオスは独自の目標「地雷の不発弾の撤廃」を掲げているほか、長野県や横浜市は中小企業向けSDGsの認証制度でSDGsの上手な



ラオスの目標18：地雷の不発弾撤廃

お問い合わせ
政策推進課
★4-2511-11内線234
☎4-2511-102
Fax 4-2511-7

使用の方を探っています。下川町も同じく落とし穴に気づき、下川町をよりよくするためにSDGsを総合計画に取り入れたのです。そこで、「2030年における下川町のありたい姿」を町民の議論で策定し、町の総合計画の将来像として目指す先を示しています。「ありたい姿」は下川版SDGsであり、SDGsの17目標が7つの「ありたい姿」の目標に紐づくことで下川町の文脈で世界目標を考えられるようになっていきます。住民中心でSDGsを自分たちの文脈に落とし込む上では下川町はお手本と言われ、国連に登壇をお願いされるほど注目されています。「ありたい姿」が下川町の目指す未来であり、政策、取組がブレないための大事な軸なのです。今回は「ありたい姿」の策定秘話です！お楽しみに！